

地元そば粉でそば打ち体験と地産地消の取り組みを交流し生産者と消費者の想いをつなげました

JA埼玉県女性協と埼玉県生協ネットワーク協議会との第16回早春交流会



2/3

JAちびっ子荒川支店のそば道場「あらかわ亭」を会場に53人が参加。道場のそば打ち名人を講師に秩父でとれたそば粉を使い4人1組で作業し1時間程で完成。試食会では、打ち立てのそばや野菜のかき揚げ等に舌鼓を打ちながら交流。試食会後、JAの荒川農産物直売所を見学。その後、6人程のグループに分かれ日頃の活動の情報交換を行い交流を深めました。

生協ネットワーク協議会は、さいたま生協、医療生協さいたま、生協パルシステム埼玉、さいたま住宅生協、さいたま高齢協、埼玉県労働者生協の6生協で構成され、組合員どうしのネットワークを広げ、地域活動を促進するためのリーダー養成に貢献することを目的に活動しています。

県議会各政党・会派との懇談会

県生協連の取り組みや消費者団体訴訟制度等について懇談

消費者団体訴訟制度、埼玉消費者被害をなくす会の取り組みと資金面での支援を国と埼玉県に求める請願についての説明をしました。また、消費者行政充実強化や食の安全、生協の事業概況や環境・福祉・平和の取り組み等県議の皆様と懇談・意見交換をしました。



12/7



12/13



12/15



12/16

2011年埼玉県生協連新春賀詞交換会 各界代表の皆様等60人が出席し懇親を深めました



1/20

埼玉県生協連を代表し、伊藤会長理事が「大変厳しい経済状況ですが組合員は約5万世帯増えていること、期待や役割に応えられるよう最大限の力を発揮していきたい」とあいさつ。来賓の皆様から、祝辞や消費者行政・食・環境・福祉など生協への期待のあいさつをいただき、なごやかに懇親を深めました。

埼玉県生協ネットワーク協議会「公開学習会」 みんながぐらしやすい社会について考えました



2/28

アテネ・北京パラリンピック連続出場を果たした義足のロングジャンパーの佐藤真海氏を講師に迎え「夢を跳ぶ〜今、わたしもあなたも輝いて〜」をテーマに開催し、73人が参加。「福祉ということではなく、不便さを支援し普通に生活できる社会になってほしい。そのためにも、障害のある人、ない人が理解しあうことが大切です。また、自然に過ごせるように子ども達に話したいことがたくさんあります。みんなが輝いてくらせるよう命・障害・夢に向かうことなど伝えていきたい」と話されました。

埼玉県消費者団体交流会委託事業 2010年度県内消費者団体地区別交流会 楽しくなごやかに交流し元気を充電



1/19北部 1/25東部 2/8西部

より身近な地域の消費者団体の交流と相互理解を深め、今後の活動の活性化を目的に3会場で開催し、28団体85人が参加しました。くまがやぐらしの会・越谷市消費生活研究会・狭山市消費者団体連絡会から「地域における消費者団体活動の広がり・つながり」をテーマに活動紹介、「消費者団体訴訟制度と埼玉消費者被害をなくす会」と題し、なくす会の伊藤専務理事が活動報告しました。また、参加団体の交流も楽しく元気に進みました。

埼玉消費者被害をなくす会 学習会&ワークショップ 広告表示の問題点を学び消費者力アップ



2/24

「もうチラシにはだまされない!」～広告表示のワークショップで消費者力アップ～をテーマに、弁護士の長田淳氏を講師に迎え13人が参加し学習しました。不当表示広告は、これまで行政による処分しかできずでしたが、平成21年より適格消費者団体も差止請求ができるようになりました。表示の問題も社会・消費者が厳しくチェックしていく必要があり、ワークショップでは、身近な広告についてグループで意見交換をしました。

さいたまコープ

北 本市と災害時における2つの協定を締結しました

2月25日、さいたまコープは北本市と「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」と「災害時における福祉協力等に関する協定」を締結、調印式は北本市役所で行われました。これに伴い災害発生時における北本市からの要請に、救援物資調達や物資配送、福祉施設で要保護者の避難受け入れなどを行います。さいたまコープの「災害時における応急生活物資供給等の協力に関する協定」の締結自治体は10自治体となりました。

石津賢治北本市市長(右)と協定書交換を行いました(左:佐藤理事長)

生協パルシステム埼玉

学 習会「どうなってるの東アジア どうなってるの日本」

2月21日、平和国際委員会テーマグループ「平和学習」が、学習会「どうなってるの東アジア どうなってるの日本」をすべすべ・ドットで開催。講師は元朝日新聞編集委員の岩重弘さん。「尖閣諸島の漁船衝突事件や、相次ぐロシア首脳訪日、北朝鮮の韓国・延坪島砲撃などの事件の背景にある問題をそれぞれの国の立場から解説。さらに、日本の将来はアジアの国々なしには成り立たないことを認識し、諸国から日本が尊敬を得るには何が必要か考えて欲しい」と話しました。

生活クラブ生協

平 和とは対等な関係のこと 水俣の甘夏と平和についての交流会を開催

私たちは平等で、奪われたい奪ったりすることのない対等な関係を保つことができる平和を目指しています。取り組みのひとつに水俣の生産者「きばる」の甘夏の共同購入があり、交流も20年になりました。その思いを広げ、伝える大切さを共有するために、「水俣」を子どもたちに伝えるネットワークの田嶋いづみさんを講師に迎え、平和交流学習会を実施。講演後は、各ブロックの平和活動について共有。田嶋さんは「自分の位置を確かめ自立するのが生活者」と話されました。

水俣の甘夏生産者「きばる」との交流会(1月21日、22日)

埼玉県労働者生協

く らしの見直し講演会「おもしろく生きよう! 人生100年を豊かにする生活設計」

2月20日、与野町コミュニティセンターでファイナンシャルプランナー・生活経済ジャーナリストのせつかつみ氏を講師に迎え、「おもしろく生きよう! 人生100年を豊かにする生活設計」と題して「くらしの見直し講演会」を開催。老後に必要なお金は、葬式や相続税などの「残すお金」、病気・介護などに「備えるお金」、そして「使うお金」の3つです。健康・いきがい・人間関係・お金のバランスを上手にとり、毎日笑顔で暮らせるように生活設計を考えてみましょうと説明がありました。

広がる 県内生協の 多彩な取り組み

この紙は再生紙を使用しています SOYINK 印刷は環境にやさしい大豆インキを使用しています。

医療生協さいたま

喜 ばれています “困った時の便利帳” “緊急対応ノート”

支部役員などによる「組合員訪問」が行われています。目的は時期や対象者により様々ですが、一人暮らしの組合員や高齢組合員の訪問時にプレゼントしている「困った時の便利帳」 “緊急対応ノート” が喜ばれています。便利帳は、体調が悪い時や困りごとがある時の連絡先をまとめて書けるようになっていました。ノートは、自分の意思を伝えなかった時に備えて、人生の終わりに対しての希望を書いておくノートです。また、対話もはずみ、医療生協と組合員のつながりを強めています。

さいたま高齢協

協 同組合原則や高齢協の役割を学習

「協同組合原則とこれからの高齢協」をテーマに、総代・職員・理事を対象に学習研修を、1月30日と2月6日に県内3ヶ所で開催し延べ71名が参加。協同組合原則を学びながら、これまでの高齢協の活動や事業はどういう意味や役割を果たしてきたのか考えました。「住みながら地域で高齢者も障害者も最後まで安心して暮らせる地域づくり」を実現していくためには、学習や実態調査、生活支援など様々な事業も必要なこと、高齢者や障害者の生活の質の向上を図るための生協の役割等話をされました。

子どものその保育生協

昔 あそびで家族の絆が深まる

1月30日、親子からへのあそびを伝える目的で、第37回親子そのまつりを開催しました。竹馬やあやとり、メンコ、ペイゴなど、親たちも一生懸命練習して当日を迎え、冬の一日を楽しく過ごしました。最近、あまりあそびを知らない親が増えてきましたが、実際に昔のあそびに触れてみるとあそびの奥深さがあり、親同士で交流したり、各家庭では親子と一緒に練習し、家族の絆も深まりました。

埼玉大学生協・大東化学学園生協・跡見学園女子大生協・淑徳大学みずほ台生協・十文字学園生協

県 と連携した不当表示広告調査結果報告会と表彰

2月22日、不当表示広告調査結果報告会と知事表彰などが行われました。調査には、7大学生協と1大学そして3高校が参加。7月～12月にかけて、雑誌・インターネットやメールマガジンにおける広告・新聞折り込み広告・新聞紙上の掲載広告などを調査。報告件数は126件、違反被疑件数は102件でした。商品別の違反被疑率は、ダイエット・美容・開運が上位を占めました。参加者は「消費者の弱みにつけこんでほしい」「消費者の意識を変えていくことが大切」と話しました。